
お 知 ら せ

平成 17 年 2 月 7 日健疾発第 0207010 号・健感発第 0207002 号厚生労働省健康局疾病対策課長・結核感染症課長連名通知「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病対策の徹底等について（依頼）」

平成 17 年 2 月 4 日、厚生科学審議会疾病対策部会クロイツフェルト・ヤコブ病等委員会において、国内初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（以下「変異型 CJD」という。）の症例が確認された。

変異型 CJD を含むプリオン病（以下「CJD 等」という。）は日常生活で人から人へ感染するものではないが、症例ごとの感染源及び感染経路の特定が困難であり時間を要すること等から、国民の方々が不安に陥ることがないように、CJD 等発生動向の迅速な把握及び適切な診断支援が極めて重要である。

貴職におかれては、引き続き感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号・以下「感染症法」という。）に基づく感染症発生動向調査を含む CJD 等対策を推進いただくとともに、下記のとおり所要の変異型 CJD 対策を講じていただくよう、特段の御配慮方を願います。

なお、本通知は本年 2 月 7 日より適用し、平成 15 年 11 月 12 日健疾発第 1112003 号・健感発第 1112001 号厚生労働省健康局疾病対策課長・結核感染症課長連名通知「感染症発生動向調査におけるクロイツフェルト・ヤコブ病の届出に関する取扱いについて」は廃止する。

記

1 感染症法に基づく CJD 等の発生届の報告については、平成 17 年 2 月 7 日健感発第 0207001 号厚生労働省結核感染症課長通知「クロイツ

フェルト・ヤコブ病の発生届の報告について」によること

- 2 保健所等における一般向け相談窓口の速やかな設置と正しい知識の普及
- 3 医療従事者に対する「クロイツフェルト・ヤコブ病診療マニュアル」等の周知徹底

なお、対策の詳細については「クロイツフェルト・ヤコブ病対策に関し」を参照されるとともに、専門的医療の提供についても、引き続き遺漏なきよう努められたい。

クロイツフェルト・ヤコブ病対策に関し

1. 感染症法に基づく CJD 等の発生届の報告について

上記の報告に関する、難治性疾患克服研究事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染調査研究班」クロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス委員会への協力依頼については、別途要請する予定であるので御承知おき願いたい。

なお、発生届の報告に当たり、医療機関において CJD 等の診断に苦慮する場合にあっては、「神経難病患者在宅医療支援事業（平成 10 年 4 月 9 日健医発第 635 号保健医療局長通知の別紙「難病特別対策推進事業実施要綱」中第 5 を参照。）」を活用されたい。

2. 保健所等における一般向け相談窓口の速やかな設置と正しい知識の普及

平成 17 年 2 月 4 日付け FAX 送付した「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病に関する Q & A」を積極的に活用し、一般の方々向け相談窓口の設置に努められたい。

3. 医療従事者に対する所要の周知徹底

以下に掲げる事項につき、貴管下医療機関を通じて、医療従事者に対する周知徹底を図られたい。

「クロイツフェルト・ヤコブ病診療マニュアル（入手先：<http://www.nanbyou.or.jp/pdf/>）

cjd_manual.pdf)」の啓発普及(平成14年2月27日健疾発第0227001号厚生労働省健康局疾病対策課長通知)

「クロイツフェルト・ヤコブ病感染予防ガイドライン(入手先:<http://www.ncnp.go.jp/nin/guide/r7/pdf/CJDGuideline-9.pdf>)」の周知徹底(平成16年9月14日医政指発第0914001号、健疾発第0914001号厚生労働省医政局指導課長・健康局疾病対策課長連名通知)

平成17年4月18日健疾発第0418001号厚生労働省健康局疾病対策課長通知「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の診断及び二次感染の防止に係る留意事項等の周知について(依頼)」

平成17年2月4日に開催された、厚生科学審議会疾病対策部会クロイツフェルト・ヤコブ病等委員会(以下「委員会」という。)において、我が国初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(以下「変異型CJD」という。)の症例(以下「今回の症例」という。)が確認された。

今回の症例は、臨床経過中に、世界保健機関が示している変異型CJDの診断基準に合致しない検査所見が確認されたことから、今後、CJDの診断に際してはこの点に留意した対応が必要となる。

また、平成17年4月8日に開催された委員会においても言及されたとおり、医療行為に伴い医療用具等が異常プリオンに汚染される危険性があることから、医療用具等を介した二次感染防止の対策についても、引き続き推進していく必要があるところである。

貴職におかれては、引き続き感染症の予防及び

感染症の患者に対する医療に関する法律(平成10年法律第114号)に基づく感染症発生動向調査を含むCJD対策を推進いただくとともに、下記の事項につき、貴管内関係機関及び医療従事者への周知について特段の御配慮方お願いする。

記

- 1 今回の症例においては、臨床経過中に実施された脳波検査及びMRI検査において、世界保健機関が示している変異型CJDの診断基準に合致しない所見が確認された(CJDサーベイランス実施時は弧発型CJDの所見を示した。)ことを踏まえ、今後、プリオン病を疑わせる症状を有する患者の診断(特に、分類の診断、除外の診断)等の際には、この点に特に留意の上対応いただきたいこと。
- 2 平成17年4月8日に開催された委員会において、今回の症例に関し、消化管内視鏡検査に用いられた内視鏡等の医療用具等が異常プリオンに汚染される可能性について言及されたところであるが、従来より、プリオン病組織については、中枢神経組織、眼組織、リンパ組織、血液等に感染性があり得ることが指摘されていることから、このような組織に対する診療に際しては、医療用具等を介した二次感染の防止について、引き続き留意の上対応いただきたいこと。
- 3 これらの事項を踏まえ、「変異型クロイツフェルト・ヤコブ病対策の徹底等について(依頼)」(平成17年2月7日健疾発第0207010号・健感発第0207002号厚生労働省健康局疾病対策課長・結核感染症課長連名通知)において示されている事項について、引き続き留意の上対応いただきたいこと。

~~~~~  
§ 医薬品・医療用具等安全性情報  
(厚生労働省医薬食品局)

平成 17 年 2 月 No. 210  
~~~~~

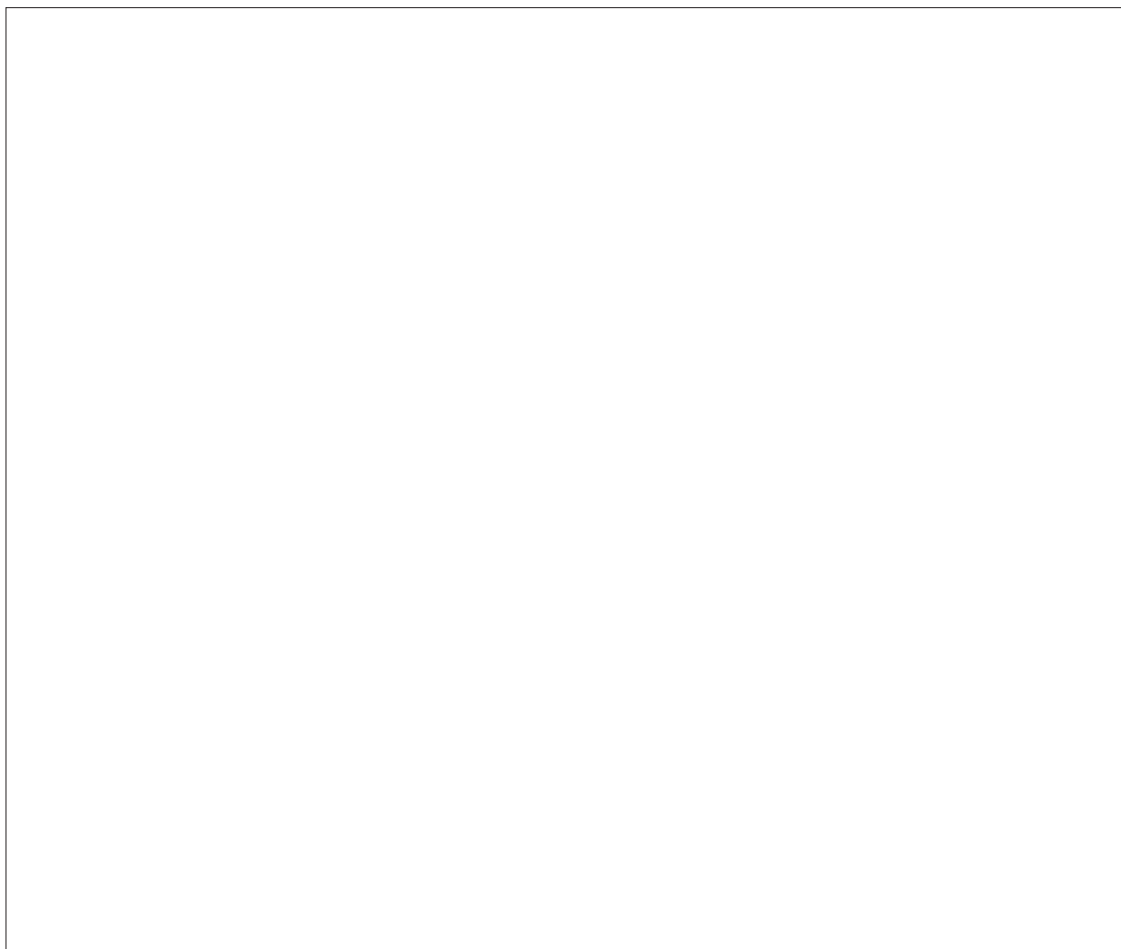




~~~~~  
§ 医薬品・医療機器等安全性情報

(厚生労働省医薬食品局)

平成 17 年 4 月 No. 212  
~~~~~

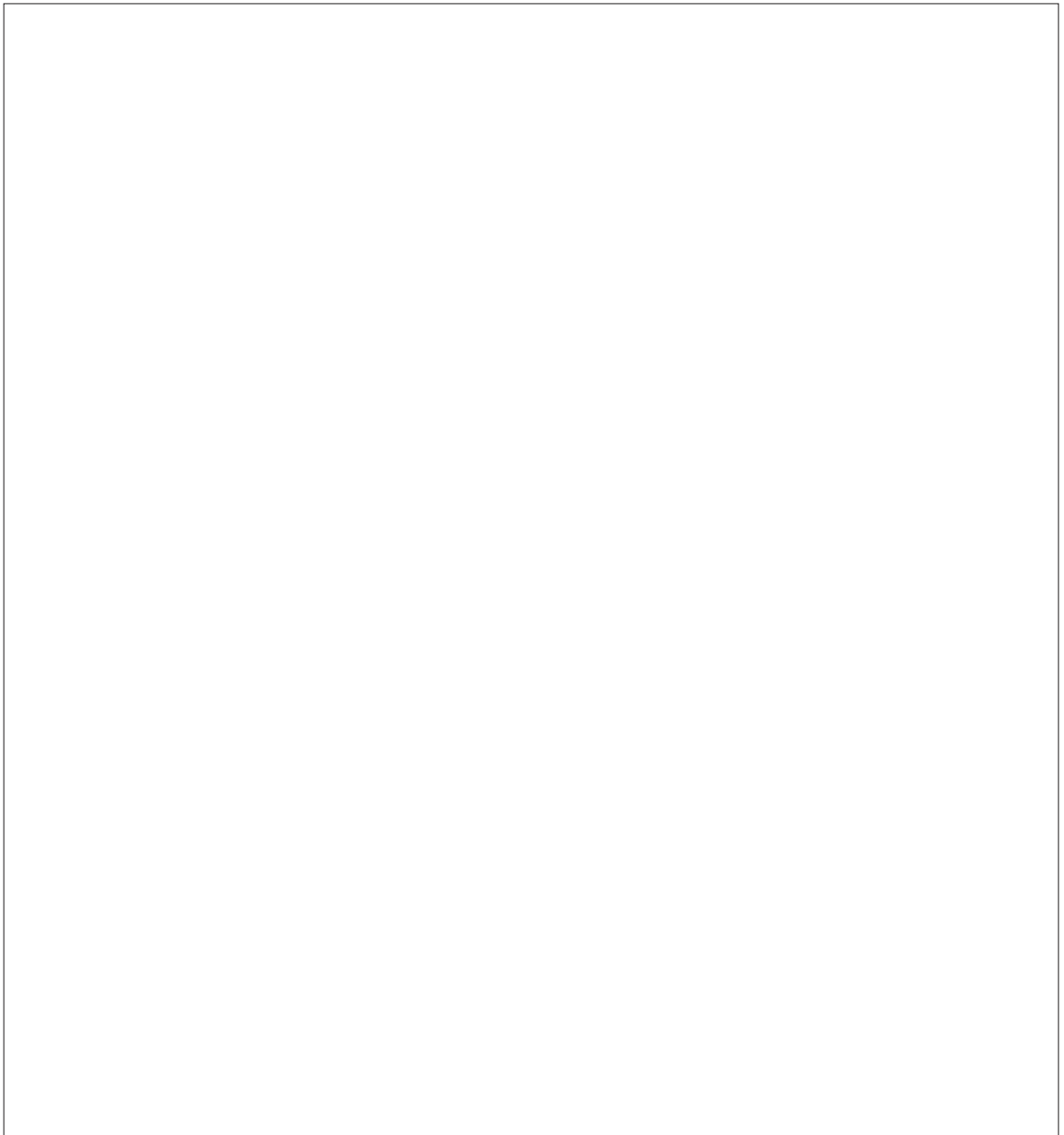




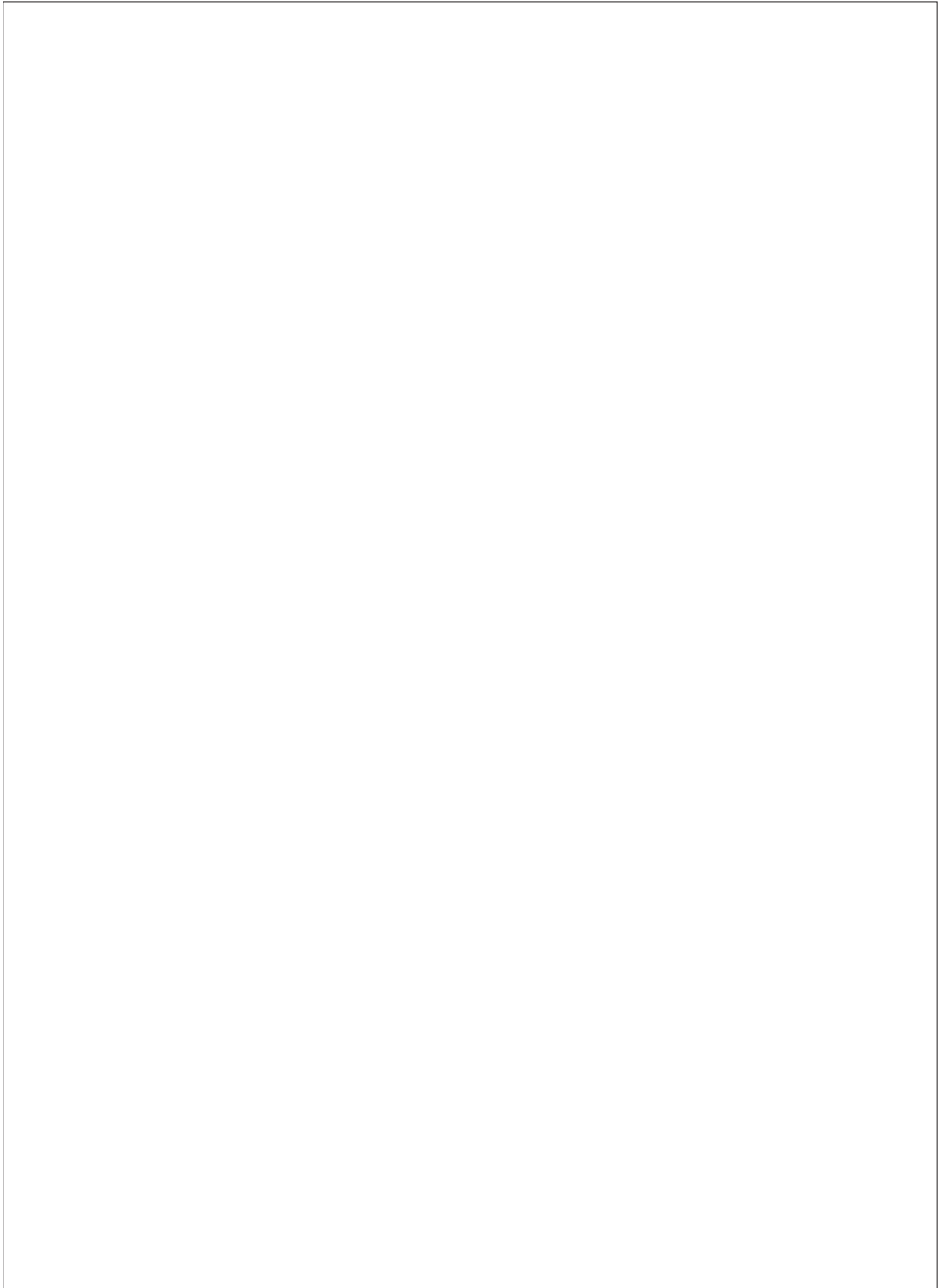
~~~~~  
§ 医薬品・医療機器等安全性情報  
(厚生労働省医薬食品局)

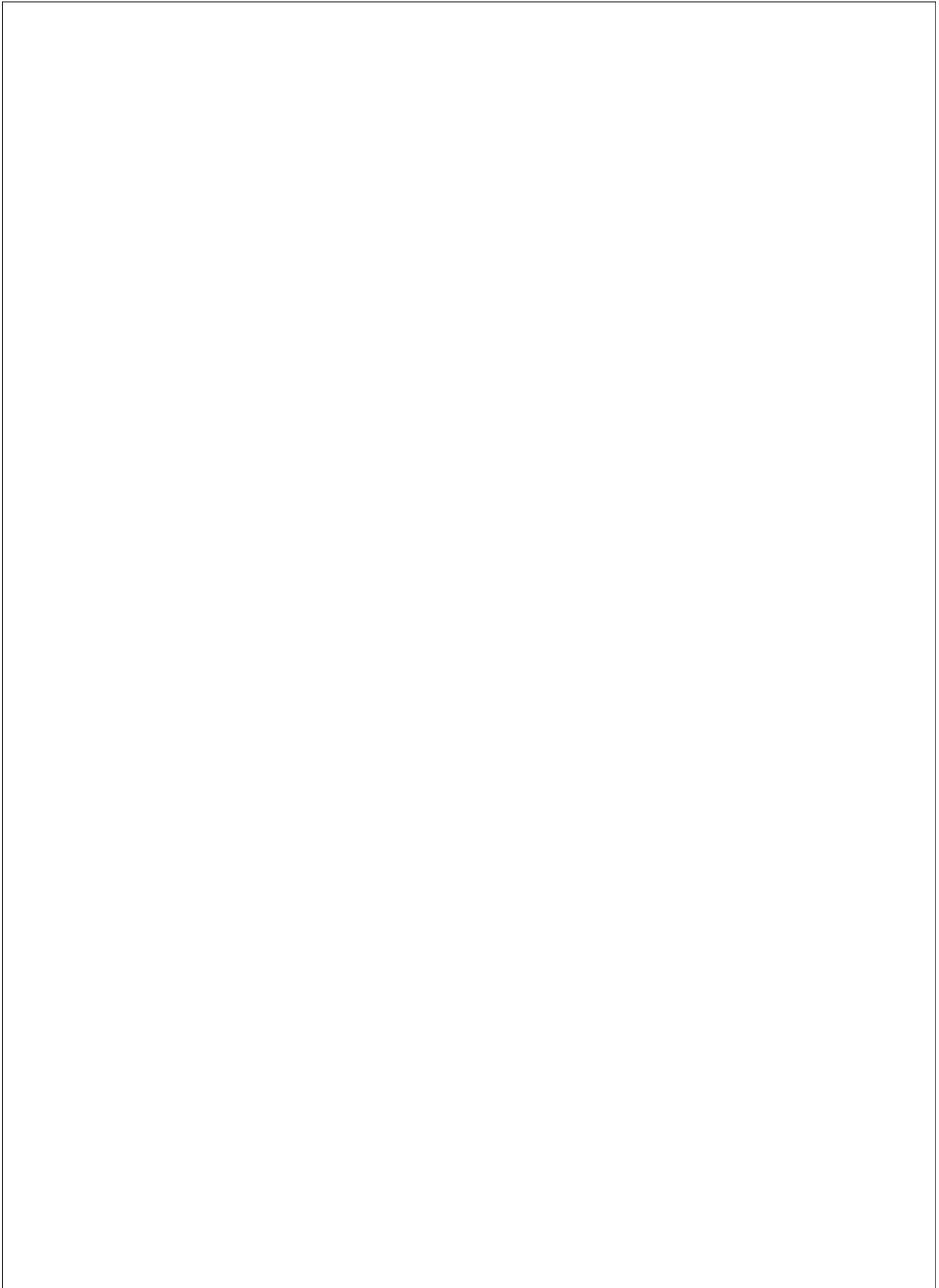
平成 17 年 5 月 No. 213  
~~~~~





(No. 208, 209, 211 はダイジェスト版なしのため、掲載しません)





§ 平成 17 年度「日本医師会医学賞」ならびに「日本医師会医学研究助成費」候補の推薦について

「日本医師会医学賞」

医学上重要な業績をあげたもの。

1 名当たり 500 万円

基礎医学部門・社会医学部門・臨床医学部門を通じ計 3 名におくられる。

各機関からの推薦数は各部門 1 名以内。

「日本医師会医学研究助成費」

医学上将来性に富む研究を行っているもの。

1 件当たり 150 万円

基礎医学部門・社会医学部門・臨床医学部門を通じ計 15 件におくられる。

各機関からの推薦数は各部門 1 件以内。

締切：平成 17 年 7 月 5 日(火)

推薦書送付先：

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16

日本医師会生涯教育課 宛

電話 03-3946-2121(代) 内線 3241~2

§ 平成 17 年度 島津賞候補者の推薦について

1. 表彰の対象

科学技術，主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究において，近年著しい成果をあげた功労者を対象とします。

2. 表彰の内容

上記功労者に対し，賞状，賞牌，副賞賞金 300 万円を贈呈します。

3. 本年度の表彰件数 1 件

4. 推薦の方法

当財団の指定学会からの推薦によることとします。推薦書は当財団所定のものに限り，貴会よりの推薦件数の制限はありません。(ただし，連名での推薦は辞退させていただきます。)

申込締切は，平成 17 年 9 月 30 日必着とします。

5. 選考審査の方法

当財団に設置する選考委員会が選考し，理事会の審議を経て決定します。

6. 審査結果の通知

審査結果は，平成 17 年 12 月上旬に，推薦学会に文書で通知します。(なお，応募書類は返却いたしませんので，予めご了承下さい。)

7. 交付の方法

平成 18 年 2 月(予定)に開催する表彰式において贈呈します。

8. 受賞者による講演

受賞者には上記受賞後，当該研究について講演をお願いし，後日当財団の発行する研究報告書，事業記録書類に投稿を依頼することがあります。

§ 財団法人 島津科学技術振興財団

研究開発助成の募集要領(平成 17 年度)

1. 助成の対象

科学技術，主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とします。

2. 応募の資格

原則として，国内の研究機関に所属する 45 歳以下の新進気鋭の日本人研究者。

3. 助成の金額

援助金総額：約 800 万円

(1 件につき 100 万円以下)

4. 応募の方法

当財団所定の研究開発助成申請書に必要事項を記入の上，当財団宛に直接送付して下さい。申請の締切は平成 17 年 9 月 30 日必着(厳守)とします。

申請書は下記からダウンロードしていただくこともできますが，提出は所定の書類を揃えて事務局までご送付下さい。

URL: <http://www.shimadzu.co.jp/SSF>

5. 選考審査の方法

当財団に設置する選考委員会が選考し，理

事会の審議を経て決定します。選考結果は、平成 17 年 12 月上旬に助成金受領決定者にのみ通知します。(応募内容は秘密を厳守し、本選考以外には流用しませんが、書類は返却いたしませんので、予めご了承下さい。)

6. 交付の方法

平成 18 年 2 月上旬(予定)に開く贈呈式において助成金を交付します。なお、当財団の助成金交付は贈呈式にご出席いただき、理事長より贈呈することを原則としていますので、贈呈式には必ずご出席下さい。

7. 助成金受領決定者へのお願い

助成金の交付額は申請額と異なる場合があります。助成金は、本財団の事業目的に沿い、助成を申請した研究を遂行するため、有効に活用して下さい。

また、平成 19 年 9 月頃に、研究成果報告(または進展状況)の提出をお願いすることになります。

本件に関するお問い合わせ先

〒604-8441

京都市中京区西ノ京西中合町 73 番地
財団法人 島津科学技術振興財団 事務局
TEL: (075) 823-3240 FAX: (075) 823-3241
E-mail: ssf@zaidan.shimadzu.co.jp

§ 第 11 回 画像センシングシンポジウム 11th Symposium on Sensing via Image Information (SSII 05)

参加案内

<http://www.ssii.jp/>

期 日 2005 年 6 月 8 日(水)~10 日(金)

8 日 チュートリアル講演

9 日, 10 日 シンポジウム

場 所 パシフィコ横浜アネックスホール 2F

〒220-0012

横浜市西区みなとみらい 1-1-1

主 催 画像センシング技術研究会
会 長 高木 幹雄 芝浦工業大学

申込方法 詳細は HP (<http://www.ssii.jp/>) にてご確認ください。

申込先・事務局

〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-16-13

(株) 精機通信社気付

画像センシング技術研究会事務局

TEL 03-3367-0571 FAX 03-3368-1519

電子メール: info@ssii.jp

§ 第 21 回 ¹³C 医学応用研究会, 第 8 回日本呼気病態生化学研究会 合同発表会のご案内

日時: 平成 17 年 11 月 4 日(金), 5 日(土)

会場: 東邦大学医療センター大森病院 5 号館
講堂

〒143-8541 大田区大森西 6-11-1

TEL: 03-3762-4151

交通: JR 蒲田駅 徒歩 20 分, 京急バス大森駅行
10 分(東邦医大前下車)

京浜急行梅屋敷駅 徒歩 5 分

今回の合同発表会では 4 日(金)に市民公開講座, 5 日(土)にシンポジウム, ランチョンセミナー, 一般演題を予定しております。呼気試験および生体ガス分析による臨床診断, 病態解析, 基礎研究, さらに ¹³C 同位体合成などに関する演題を募集します。シンポジウムは「呼気ガス, ¹³C 等を用いた非侵襲診断法の確立」をテーマとして, 演題を募集します。

演題の申込は, 最初に第 21 回 ¹³C 医学応用研究会, 第 8 回日本呼気病態生化学研究会, どちらでの発表を希望するか明記し, タイトル, 所属, 氏名, 本文の順に合計 600 字以内で記載し, 9 月 30 日までに下記にメールでお送り下さい。

演題送り先メールアドレス

koki13c2005@world.odn.ne.jp

なお、5日(土)研究会終了後、懇親会を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

【お問合せ先】

第21回 ^{13}C 医学応用研究会

〒143-8541 大田区大森西 6-11-1

東邦大学医療センター大森病院消化器内科

三木一正

TEL: 03-3768-7242 FAX: 03-3768-7241

E-mail: mikik@med.toho-u.ac.jp

第8回日本呼吸病態生化学研究会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学総合保健体育科学センター

近藤孝晴

TEL & FAX: 052-789-3960

E-mail: kondo@htc.nagoya-u.ac.jp

正誤表

核医学第41巻2号(2004年)原著論文「 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -標識製剤を用いた安静時心電図同期シンチグラムによる不安定狭心症の診断精度と予後の推測に関する研究」西山理, 上嶋健治著, 101-107頁に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

訂正: 102頁右段3行目~

誤

視覚的に Defect score として, 4段階 (1. 正常, 2. 軽度から中等度灌流低下, 3. 高度灌流低下, 4. 完全欠損) にスコア化した。~

正

視覚的に Defect score として, 4段階 (0. 正常, 1. 軽度から中等度灌流低下, 2. 高度灌流低下, 3. 完全欠損) にスコア化した。~